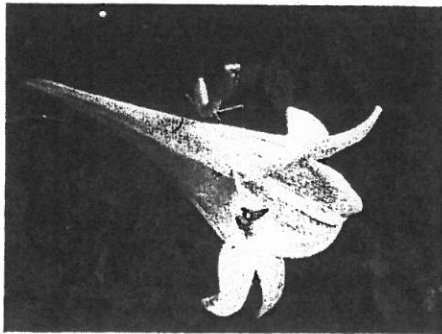


<> はおもな地点をあらわしています

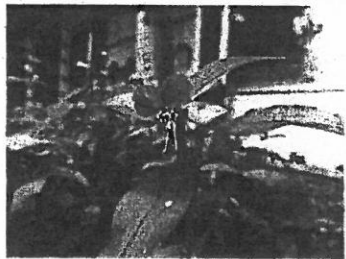
季節のできごと

・秋の畑の準備をしています。<A>

・水田のお米を無肥料、無農薬で育てています。お米の種類は埼玉県産の「彩のかがやき」です。11月初めに稲刈りを予定しています。



タカサゴユリとカマキリ



ツユクサ

クリ ◎イガに注意



出入口

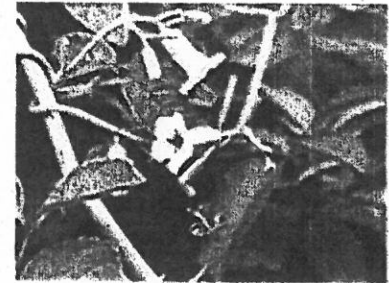


*ショウリョウバッタ

展望室

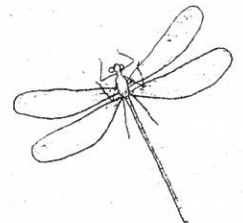
* 印は、裏に説明があります。

よ さんこう くらで 読んで参考にして下さい。

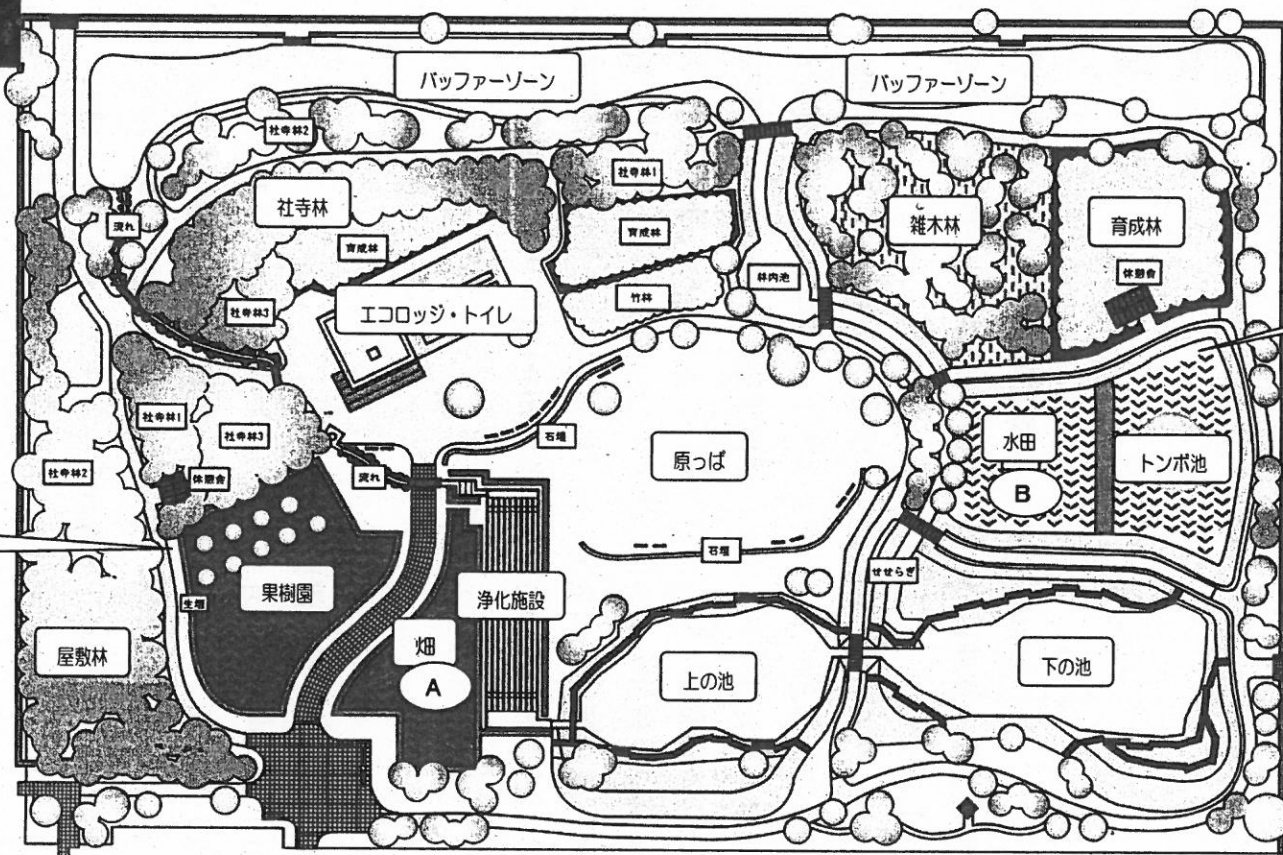


*ヘクソカズラ

*ガマ



*ハグロトンボ



◆◆ ガマ ◆◆

トンボ池の一角にガマが群生しています。

フランクルトのような部分は“ガマの穂”
と呼ばれます。秋に熟すとほじけて、白い
綿毛を持つ種子が風に乗って飛散、水面
に落ちると発芽します。



『因幡の白兔』の神話では、毛皮をはがれたウサギが大国主命に教わり、
ガマの穂の花粉にくるまれたことで元通りの姿に戻ったとされています。実際、
ガマの花粉を乾燥させたものは蒲黄（ほおう）と呼ばれ、生薬として止血や利尿
に使われました。



◆◆ ショウリョウバッタ ◆◆

ショウリョウバッタは旧盆の頃（8月中旬）からよくみられるようになるので、
ショウリョウ（精霊）バッタと名付けられました。

秋の虫の声というコオロギやスズムシなどが有名です。前翅に発音器官をも
ち、翅をすりあわせて鳴きます。主に求愛のためなので、鳴くのはオスのみです。

バッタもコオロギなどと同じバッタ目という分類に属しています。バッタの仲間
は仕組みが少し違って、例えばショウリョウバッタは飛んでいる時に翅が動くこと
で音が出ます。その音からキチキチバッタとも言われています。

オスは4 cm、メスは8 cm と身体の大きさが倍近く違い、メスはあまり飛
ばずにのそのそ歩くので目立ちます。メスは日本に生息するバッタの中で一番大き
いと言われています。体の色は同じ種類でも緑、褐色、緑の体に茶色の線など
があり、生まれつきで変わりません。遺伝によるようですが、幼虫のころの環境
（草原か枯れた草地か）などが影響するという説もあります。

◆◆ ヘクソカズラ ◆◆

夏から初秋の頃に、中心は紅紫色で、つりがね型の小さな白い花をた
くさん咲かせます。つる性なので他の木や草にからまって広範囲に伸びま
す。ずいぶん名前ですが、葉や茎、果実をもむ（傷つける）と嫌な臭いがす
るからです。実際に動物のおならやフンと同じ成分の物質が含まれていま
す。この臭いは動けない植物が、攻撃しようとする昆虫や他の植物などから
身を守るための作用と言われています。

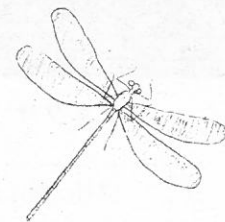
なお、色合いや形がお灸をすえた跡に
似ているのでヤイトバナ（灸花）、
花を水に浮かべた姿が田植えをする娘
のかぶる笠に似ているのでサオトメバナ
（早乙女花）という別名もあります。



どの名前がこの花に似合うと思われますか？

◆◆ ハグロトンボ ◆◆

生態園の林内池などのやや暗いところ、
低い位置でひらひらと飛んでいる黒い翅の



トンボは、ハグロトンボです。

腹部は細身でオスは金属のような光沢のある緑色、メスは光沢がありま
せん。ハグロは昔の既婚女性が歯を黒く染めた色に似ていることと、翅の
色をかけたものと言われています。

お盆のころに多く見られることから、先祖の魂を導く存在として、神様
トンボと呼ぶ地域があるそうです。ゆっくりと翅を開閉する動きが、人が手を
合わせて神様に祈る姿に似ているとも言われています。